

Miccolomia (Isomiccolamia) plurae TAKAKUWA et
N. OHBAYASHI, Jpn. J. Syst. Ent. 1(2): 194
-197, Figs. 3-9, 1995.

Paratype. 1♂, Mt. Hyonoson, Hyogo Pref.
5. V. 1973, M. YUMA leg.

(III. 1997)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県のハバチ (1) ホシアシブトハバチ 矢代 学

兵庫県のハバチ類に関する文献は少なく、採集記録や生態に関する記録は殆どない。私は、コンボウハバチ科 (Cimbicidae) を主にハバチ類を集めており、兵庫県産を中心にハバチ類の分布及び生態的知見について述べていくつもりである。

最初にホシアシブトハバチを紹介する。

ホシアシブトハバチ *Agenocimbex jucunda* Mosary, 1896) は、体長12~18mmで頭胸部が青色光沢ある黒色、腹部は鮮やかな橙色の美しい種で、日本国内では本州、四国、九州に分布し、中国からも知られている。

成虫出現時期は、4月上旬から5月上旬である。エノキを植樹としているので各地に分布していると思われるが、成虫の採集記録は非常に少ない。かつては、ハバチ界の大稀種と言われていた。

私自身、大学入学当時(1975年)に神戸大学構内のエノキから幼虫を採集して以来20年近く成虫を採集する機会に恵まれなかった。また、幼虫を採集しても飼育が難しく繭を作っても成虫を得られなかった。1994年4月16日、この年初めて成虫を羽化させることに成功し、雌を生かしておいたところ家の周りをホシアシブトハバチが飛び回っているのを家族が発見してくれた。

翌4月17日、前年に幼虫を採集したエノキを見

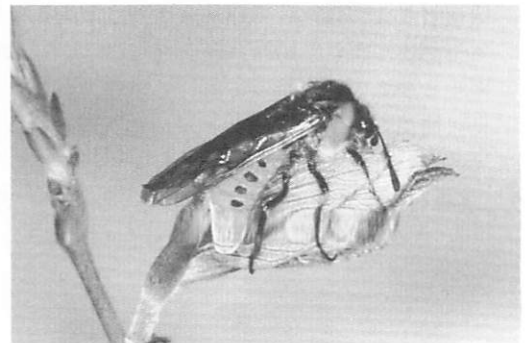
てわたしは、うれしい悲鳴をあげた。樹高10m程のエノキの周囲をホシアシブトハバチが乱舞していた。上部の梢には交尾中のペアも認められた。20頭程の本種が樹冠を飛び交う様はまるで夢を見ているようであった。このエノキで配偶行動や産卵の様子を観察することができ、今までの空白を埋めることができた。交尾が非常に短い期間(1日ないし2日)に行われること、交尾後雄は、分散してしまう事などである。

1994年は、本種の当たり年だったようで、前述の自宅付近(加古川市平岡町)以外でも、採集することができた。また、斉藤寿久前箕面昆虫館館長から川西市産標本を頂いた。

その後、このエノキは伐採されてしまい、私の絶好の観察ポイントが無くなったのは残念である。

私の所有している兵庫県産本種のデータは、以下の通りである。

高砂市伊保町	1994, 4, 21	3♂	矢代 学採集
加古川市平岡町	1994, 4, 17	7♂, 6♀	"
西宮市香炉園町	1994, 4, 22	4♂	"
芦屋市大東町	1994, 4, 13	1♀	"
川西市笹部	1994, 4, 26	1♀	斉藤寿久採集
小野市青野ヶ原	1995, 5, 4	1♂	矢代 学採集
小野市青野ヶ原	1996, 4, 30	1♂	"



エノキに産卵するホシアシブトハバチ
1994, 4, 21 加古川市平岡町

(YASHORO MANABU 加古川市平岡町一色東1丁目
578-10)